

俳句 大津俳句会

風雨にもめげずに元氣百日草

井芹眞一郎

刃を当てしばかりに裂ける西瓜かな

秋山 恵子

法師蟬鳴いて友の訃知る夕べ

市原 初女

墓守の役目を果たし盆迎ふ

大塚喜久子

長雨の止みて一氣に群とんぼ

佐賀 久子

原爆忌記憶の残る島に佇^たつ

松尾 昭雅

我影も燃えてをりけり炎天下

岡崎 浩子

窓辺から団欒の声月涼し

森山美穂子

初盆やわが眼裏に夫の影

佐澤 俊子

俳句 つのはな句会

たましいを閉じて 広げて揚羽蝶

柴田しのぶ

梅漬けて染みし亡母の手 甕^{かめ}古ぶ

志賀 孝子

八月のトンボ鉛筆ころがして

田上 公代

ワクチンの話題行き交う夏見舞

木庭 杏子

伴天連の告白を喰^{あおほおすき}む青鬼灯

上杉 波

ビー玉の反乱 西日ころがして

矢嶋 道子

若竹や天まで「おーい、かぐや姫」

水野 春子

東京五輪 目線の先に燃える魂

梅木トキエ

鯨光る夜の波止場の釣り人ら

塚本 洋子

短歌 大津短歌会

阿蘇の山野焼きの後の黒土に黄すみれ映える螢火のごと

豊岡ミツル

試練をやひたすら絶えよつばくらめ抱卵むなし落下の巢殻

吉永 恵子

夕つ日のオレンジの玉たなびける雲にゆつくり飲まれゆく見ゆ

坂本 杲子

大地震やコロナ禍も我閑せずと養母は逝けりほほ笑みながら

鞍 岳志

啓蟄の今日の温きに虫たちは勇みたつ日か人も皆成す

管野 静

夏の風窓よりきたりて我誘う白雲浮かぶ阿蘇の山脈^{やまなみ}

小平 善行